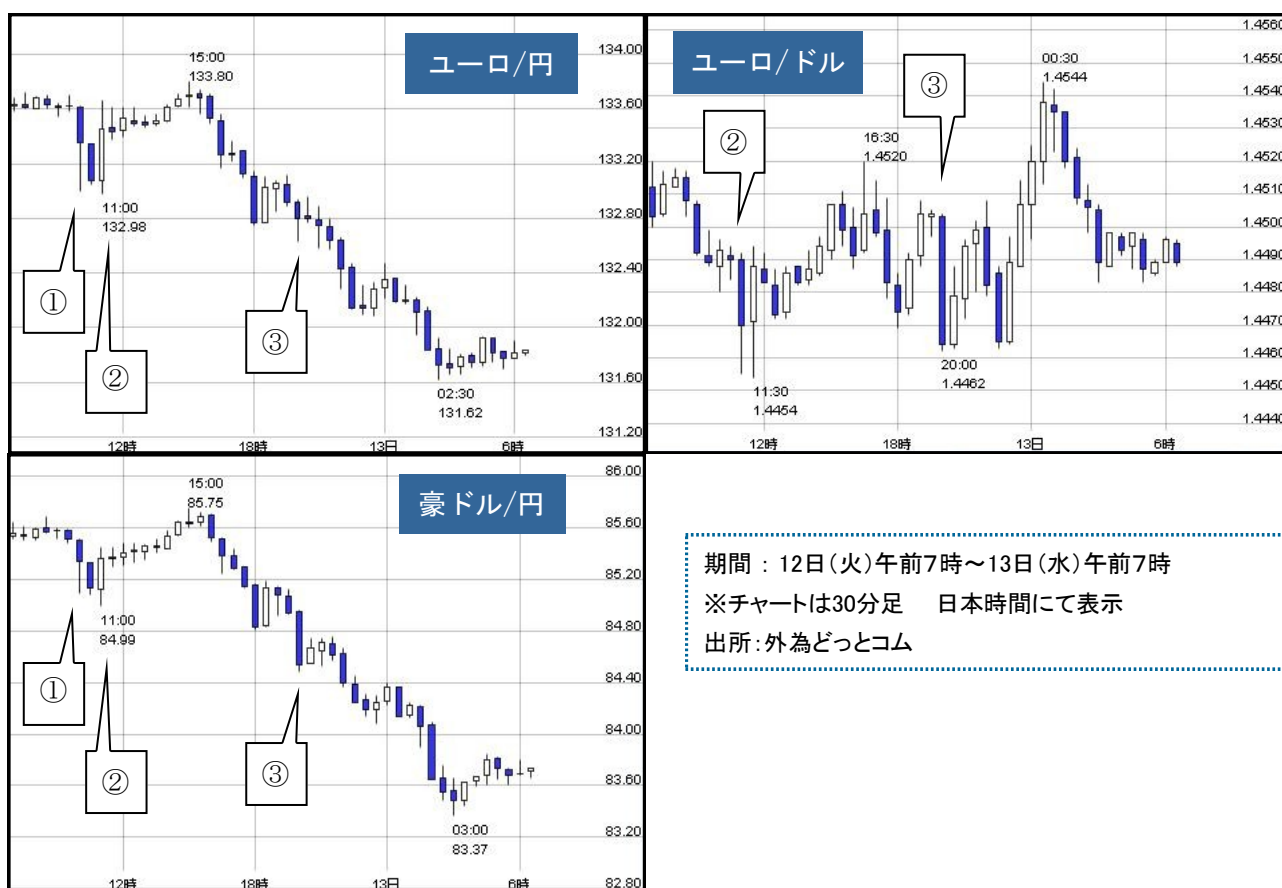


主要通貨の日々の推移をわかりやすく解説し、今後の見通しをお届けします。

1月13日(水曜日)  
ユーロ/円  
ユーロ/ドル  
豪ドル/円

## 豪ドルは「商品」と「中国株」が鍵

### 12日(火)の主な推移



- ① 9時30分に発表された豪11月住宅ローン件数が-5.6%と、市場予想の-0.5%よりも弱い結果になったことで、豪ドル/円が下落。これに連れる形でユーロ/円など他のクロス円も下落した。
- ② 11時過ぎ、一部通信社が中国の政府系ファンド当局者の話として「ドルは底を打ち、一段の下げ余地は限定的」「円は引き続き下落する見通し」と伝えたことで、ドルは急反発し、ユーロ/ドルは11時30分過ぎには1.4454ドルの安値をつけた。一方、円は全面的に急落した。ただ、12時前に再び「コメントは個人的な見解」という続報があったことから、円は値を戻し、ドルは再び売られる結果になった。
- ③ 中国人民銀行が1月18日付で銀行の預金準備率を0.5%引き上げることを発表。市場では「中国が金融引き締めを開始」と受け止められ、中国の資源需要が低下するとの観測が台頭。これを受けて豪ドルが円やドルに対して急落した。この豪ドルに対する円高やドル高は他の通貨にも波及し、ユーロに対しても円やドルが買われた。

### ユーロ/ドル、ユーロ/円の要因

- ・リスクを取ることに積極的になる動きから、円売り、高金利通貨買いの流れ(ユーロ/円上昇要因)
- ・主要新興国(BRICs)を中心にドル離れに動くとの観測(ユーロ上昇要因)
- ・米低金利政策長期化観測に伴う米長期金利の低下(ユーロ/ドル上昇要因)
- ・米景気回復に伴う米長期金利の上昇(ユーロ/ドル下落要因)
- ・リスクを取ることに消極的になる動きから、円の買い戻しの流れ(ユーロ/円下落要因)

### 豪ドル/円の要因

- ・リスクを取ることに積極的になる動きから高金利通貨買いの流れ(豪ドル/円上昇要因)
- ・豪利上げ観測に伴う日豪金利差の拡大(豪ドル/円上昇要因)
- ・株価、資源価格の上昇(豪ドル/円上昇要因)
- ・日銀による追加金融緩和観測(豪ドル/円上昇要因)
- ・豪州中銀による利上げ観測の後退(豪ドル下落要因)
- ・株価、資源価格の下落(豪ドル下落要因)
- ・リスクを取ることに消極的になる動きから、円の買い戻しの流れ(豪ドル下落要因)

### 本日の見通し

#### 本日の予想レンジ

ユーロ/ドル: 1.4360-1.4570ドル  
ユーロ/円 : 131.20-133.00

#### 本日の予想レンジ

豪ドル/円: 82.50-85.00円

明日に欧州中銀の政策金利発表や米小売売上高などの重要指標の発表を控えていることから、本日のユーロは対ドル、対円ともに方向性が出にくいとみる。ただ、本日発表される英鋳工業生産が市場予想から乖離した結果となり、ポンドが大きく動けば、ユーロもそれに連れて急激な動きを見せる可能性があるため、注意したい。

ユーロ/ドルは 1.46ドル手前で上値の重さが鮮明となっているが、仮に1.46ドルを突破すれば60日移動平均線のある1.4714ドル付近まで上値余地ができる。一方、下値については、1月上旬に上値抵抗線となった20日移動平均線(本日時点: 1.4380ドル)あたりで底堅いとみる。

豪ドルは中国の金融引き締め開始に伴う資源重要が減退するとの観測が重石になっている。本日も引き続き金や原油などの商品価格が下落するようならば、豪ドルも円やドルに対して続落となる公算が大きい。

また、アジア時間については、中国株式市場の方向性も豪ドル/円に影響しそうだ。中国株が上昇すれば豪ドルの買い要因、下落すれば豪ドルの売り要因となろう。

### 本日の注目イベント

※注目度が高い順に「◎」「○」「無印」で表示 日本時間での表示

日付	時間	注目度	経済指標、イベント等	前回発表数値	市場予想
1/13(水)	18:30	○	(英) 11月鋳工業生産[前月比]	± 0.0%	+ 0.3%
	28:00	○	(米) 地区連銀経済報告(ページブック)	—	—
1/14(木)	6:45		(NZ) 11月住宅建設許可[前月比]	+11.7%	—
	8:50		(日) 11月機械受注[前月比]	-4.5%	+2.0%
	8:50		(日) 11月機械受注[前年比]	-21.0%	-9.9%

※発表時刻は予告なく変更される場合があります。また、※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。